

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：湖水苑

施設種類：グループホーム ・ 小規模多機能型居宅介護施設（該当に○）

日時： 1年 6月 12日 14時～15時

会場： 湖水苑レイクホール

参加者

| | | | |
|-----------------------|----|-----------------|----|
| 利用者代表 | 0人 | 有識者 | 2人 |
| 利用者家族 | 0人 | 高齢者あんしん支援センター職員 | 1人 |
| 地域住民の代表 | 1人 | 出雲市職員 | 1人 |
| その他〔施設長・介護支援専門員兼管理者、〕 | | | 3人 |

1：利用状況

ご利用状況現在

男性1名、女性17名（空床0）平均介護度2.3 平均年齢 86.6才
湖陵町6名、佐田町3名、大津町1名、大島町1名、知井宮町1名
所原町1名、大社町1名、塩冶町2名、今市町1名

2：近況報告

平成 30 年度外部評価について

事例発表

72歳女性 入所1年10ヵ月

入所後より、状態の変化が続いており、比較的早いスピードで認知症が進行していた。話す内容が支離滅裂となり、過去の記憶や語彙が急速に少なくなった。昨年秋ごろより服を重ね着するようになり、多い時では20枚以上着込むこともあった。

3月頃より、強い帰宅願望の訴えが始まり、感情の起伏が激しくなった。

4月に入り、自室より外へ出られることが増え、職員で話し合いの時間を多く持った。

今までの関わり方を見直し、認知症高齢者に対する専門職としての対応をするよう心掛けた。また夜間専門職員とも同様の話し合いの場を設け、全職員が同じ対応をするよう努めた。家族とも面談を行い、現状の状況、行っている対応、今後起こりうることなどを伝えた。万が一のことを考え、家族と共に、近隣の商業施設へ情報提供を行い、協力を得ることが出来た。主治医とも相談をし、少し内服薬の種類を増やした。それでも外へ向かわれる状態が続いているが、職員との関係は深まり、少しずつ外へ向かう回数も減っている。

入退所状況

4月22日 入所 90才女性（高齢者住宅）より

待機状況

現在11名の入所待ちの待機状況。

3：今後の予定

- ・ 次回の運営推進会議は8月14日です。

*出席者より

- ・ 外部評価の結果について意見あり。
- ・ 事例発表について質問

Q 上記のような状況でも施錠はできないのか？

A 施錠は基本出来ません。仮に施錠をしたとしてもこの方の症状が改善されることはなく、むしろ悪化する恐れもあります。